

2021年8月7日(土) 13時～オンライン開催

## 今号の内容

1. 第4回総合研究会  
 報告 総研2日目  
 (夏の総研 8.7)



2. 支部教研報告  
 松筑支部  
 下伊那支部  
 上小支部

## 教文通信アーカイブス

- 教文通信 No.1 (電子版)  
 新型コロナウイルス感染症  
 禍でのアンケート結果
- 教文通信 No.2 (電子版)  
 ジェンダー平等の教育を考え  
 る総研資料
- 教文通信 No.3 (電子版)  
 職場教研報告
- 教文通信 No.4 (電子版)

## 1. 報告・交流「観点別評価」の実際について

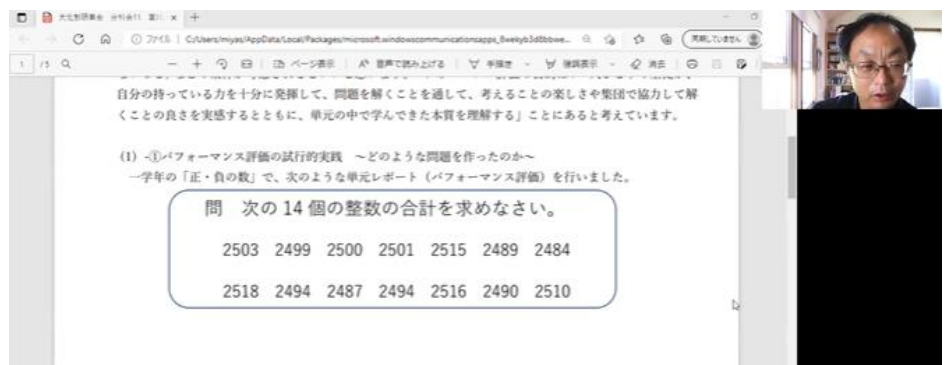
### (1)宮川 康浩さん(大町市仁科台中学校) 「パフォーマンス評価の狙いと実際」

子どもたちの豊かな学びを保障するというこ  
 は、豊かな学びを保障できたかどうか、私たち  
 自身が評価しなければならない。子どもたちが楽  
 しかった、また新しい問題に対してこうしたら解け  
 るのではないか、とある程度の見通しが持てる授  
 業が続けられなければ、私たちが間違っているとい  
 うことになる。指導内容と指導目標と評価が  
 一体となって、私たちと子どもたちで同時に授業を作っていくことが理想としてある。パ  
 フォーマンス評価はそのためにやっている。



### パフォーマンス評価の試行的実践

パフォーマンス評価は複数で評価しなければならないとされているが、今回は採点  
 基準の一覧表を作成し、各自で採点を行った。  
 1年生の「正の数・負の数」では正負の概念(基準より大きければプラス、小さけれ  
 ばマイナスとする。あるいは一方向をプラスにしたら反対方向はマイナスするという概念  
 の中で作られている)で14この整数の合計を求めるパフォーマンス評価を行った。ど  
 のように計算したのかわかるように途中式を書くよう指示し、採点基準は子どもたちに  
 口頭で伝えた。



### 態度をどう評価するか

難しい問題を解くときに子どもたちがどのように一生懸命工夫をし、知識を総動員  
 して子どもたち自身の考え方で進む、粘り強さ・数学を活用してこの問題を解いてみ

上西充子さん（法政大学  
教授）講演会報告

**教文通信 No.5（電子版）**

松川高校・理科研究会・教  
文運営委員会報告

**教文通信 No.6（電子版）**

「学びの『指標』（案）」討  
議資料

**教文通信 No.7（電子版）**

支部教研特集

**教文通信 No.8（電子版）**

支部教研特集

**教文通信 No.9（電子版）**

家庭科教育研究会県との懇  
談会

**教文通信 No.10（電子版）**

新年のご挨拶

**教文通信 No.11（電子版）**

「ジェンダー平等の教育」総  
合研究会 菊地夏野さん（名  
古屋市立大学）講演

**教文通信 No.12（電子版）**

「教育の ICT 化を考える」  
総合研究会 山本宏樹さん  
（東京電機大学）講演

**教文通信 No.13（電子版）**

「特別支援教育」総合研究  
会 三木裕和さん（鳥取大  
学）講演、報告 坂戸千明さ  
ん（全障研長野支部）、北  
原恵美さん（箕輪進修高  
校）

**教文通信 No.14（電子版）**

「学力と評価を考える」総合  
研究会 佐貫浩さん（法政大  
学）講演、宮下与兵衛さん  
（東京都立大学）講演、報  
告 田澤秀子さん（上農高  
校）、諏訪支部教研報告

たいという思い、そういったものを評価する。大町市では、パフォーマンス評価をした上でそのパフォーマンスの得点に関心意欲態度の評価としている。

3 観点で基礎基本技能がつく A 「思考判断表現 B」となると自動的に態度の3 観点も B になる。思考判断表現と態度の評定は同一となる。あまりにも差がある場合は理由のある場合に限り変更するという方法でやろうとしている。

問題点もたくさんあるし、子どもたちとのすり合わせも必要だが今年はこれでやってみなければ良し悪しもわからない。

ある問題に対してテストになると振るわず、計算も苦手な生徒が、クラスで唯一の考え方を編み出した。こういった子どもたちを直感的、またはその子が持っている数理を発揮できる場所で活躍させることができる可能性が見えてきた。こういったことを発見できるのは、知識技能ができない子どもでも十分可能であるということがパフォーマンス評価の良さであり、こういった子どもたちに自信をつけ、数学が面白いと思わせるには一定の効果を発揮しているのではないかと思う。

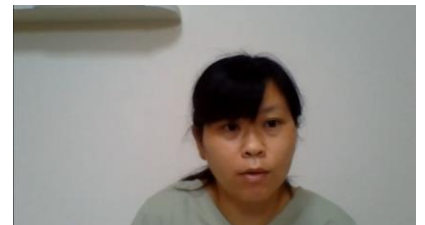
### 子どもたちの自己評価と教員側の評価

前段の、クラスで唯一の考え方を編み出した生徒に対し、教員側はそれを評価した。しかし、生徒は「規則を見つけようとはしたが間違っていた」、という評価をしている。教員側だけではなく、生徒も納得のいく評価とするためには、生徒自身の自己評価の重要である。

自分はうまくいった、ということに対して「よくやったな」という背中を押すような評価をかけられると子どもたちは伸びるのではないか。そのためには子どもたち自身の自己評価を教員側が知り、様々な評価をマッチングさせ励ましていくことが必要で、それが前提にないと子どもたちを苦しめたり、人格管理につながったりしてしまわないかと考える。

## （2）藤原瑞穂さん（大阪府立佐野工科高校定時制課程） 観点別評価の実際について

大阪では H28 年 10 月に「観点別学習状況の評価」実施の手引き（大阪府教育委員会）が出され、「関心・意欲・態度」「思考・判断・表現」「技能」「知識・理解」4 つの観点において評価することが始まった。シラバスについては全国のもの大きく変わりはなく、どの観点で評価するのかを盛り込んだものだった。



H29 年 3 月には大阪府教育センターから、「高等学校 学習評価に関する参考資料」が出され、単元（題材）における目標の設定から、学年末の評定の総括に至るまでの過程が詳しく書かれていた。H28・H29 の段階では生徒を各観点で見ている、くらいの認識で今とは異なる。

今の観点別評価に移行したのは、令和 3 年 1 月に新学習指導要領の趣旨を踏まえた「観点別学習状況の評価」実施の手引きが出されたため。「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」3 つの観点で評価するとし、これまでの 4 つの観点が 3 つの観点到になり、3 つの観点の重みを均等に扱うということに関して教員側は抵抗を覚えた。均等に扱うことを求められ、令和 4 年度から指導要録において観点別学習状況の評価を記載の必要があるため、大阪府では今年度から先行し校務処理システムの仕様を観点別学習状況の評価に対応した形式に変更した。

**教文通信 No.277 (紙版)**  
 「コロナ後の教育はどうあるべきか」  
 勝野 正章さん  
 (東京大学教授)

**教文通信 No.278 (紙版)**  
 「資質・能力」論批判と教育評価のあり方について  
 佐貫 浩さん  
 (法政大学名誉教授)  
 「教育は何を評価してきたのか」  
 本田由紀さん(東京大学教授) 講演会の報告

**教文通信 No.279 (紙版)**  
 「観点別評価や非認知能力の評価・評定をめぐる問題」  
 黒田 友紀さん  
 (日本大学准教授)  
 討議資料「観点別評価について」 教文会議常任委員会

\* 教文通信は、教文 HP の会員専用ページでご覧になれます。

手引きが出されたので、R3 年 1 月に各教科で評価方法について検討し、R3 年 4 月からは教務部中心に評価や評定を総括する方法、内規について検討し、7 月には教務主任が観点別学習状況の評価方法についての説明会を実施した。現在はシラバスの作成をし、今後各教科で試行される予定である。

・各教科での試行(今後実施予定)  
 <参考 観点別学習状況の評価及び評定～総括する方法例>  
 観点別学習状況の評価への総括

	小テスト	振返りシート	パフォーマンス マンス 課題	ワークシート	パフォーマンス マンス 課題	期末考査	振返りシート	学年末 観点	学年末 評定
知・技	15/20	〃	〃	〃	〃	50/80	〃	65/100	B
思・判・表	〃	〃	20/30	5/20	20/30	20/30	〃	65/100	B
主体態度	〃	15/30	15/20	〃	5/20	〃	15/30	50/100	B

(判断基準例) 0 から 39→C 40 から 79→B 80 以上→A

**校内で検討されたこと  
 各観点の評価方法、課題の設定について**

定時制の生徒は自分の考えや意見を言葉でも文字でも表現を苦手とする生徒が多い。思考判断表現力が 1/3 のウェイトを占めるので、どのように指導すれば自分の考えを表現できるのか、指導が難しい。評価基準についても小学校中学校の学力が定着していない生徒もいるので、判断基準をどう作成していくのかも難しい。また定時制は各教科の常勤が 1 名であることが多い。そういった中でどのように課題を設定し、判断基準を作成していくのか、どこまで教科の裁量とするのか、というのが課題として挙がってくるのではと思う。

**考査の見直し・成績の開示内容**

考査の成績に占める割合が今までよりも少なくなるので、考査の回数を減らしたらどうかという意見も出てきている。生徒への成績の開示内容についても各観点の ABC 評価だけを出していると、最終評定の 5 段階がどうなるのかイメージしにくいだろう。この成績をどこまでどう表していくかも検討しなければいけない。

**生徒の指導**

生徒の授業の出席状況、生活態度を評価に含めることはできない。しかし、定時制の生徒にとっては授業の出席状況、生活態度などの力をつけることも大切なことである。評価に含まれないことをどのように指導していくのか、といったことも大事な観点かと思うので、合わせて検討していくことになると思う。

## 2. 実践報告

### 鈴木 実さん（諏訪実業高校） プログラミング学習教材の活用とその評価

#### プログラミング支援ツールを使った探究実践

経済産業省「EdTech 導入補助金」事業の中で「Life is Tech!」という支援ツールをカリキュラム通りに学習した後、ウェブページを作成。地域の観光資源や工場を外部に発信していくという授業の発展活動として、生徒自身がオリジナルウェブページを作成した。（2年生）



#### 「評価」について

2～3人のグループで一つのHPを作成した。グループごとに作成したものの評価をどのように「個人」へ還元するべきかという部分で、できる子がどんどん進めてそれに乗っかって評価を横取りすることがないように、生徒自身の自己評価（自分で頑張ったところをアピール）とグループ内での貢献度、そして教員からみた客観的評価を合わせて行った。

生徒たちへは「内容の秀逸さ、作業の進捗状況、参加・貢献状況（主観客観両面）」を数値化することで評価をすることを伝えた。

#### 中間作成分の評価基準

9月11日 需要分析まとめ評価基準

	2B	2C	2D
分量	各10点	各10点	各10点
体裁	10	5	0
(1)資源	10	10	10
(2)企画	10	0	10
(3)構成	10	0	0
(4)課題	10	0	0
内容・質	各10点	各10点	各10点
体裁	10	3	0
(1)資源	7	5	7
(2)企画	5	0	7
(3)構成	8	0	0
(4)課題	8	0	0
合計	88	23	34

写真はあがる、  
諏訪のものか怪  
しいもの……1



分量	規定の量を満たしている	10
	規定の量の半分程度	5
	記載なし	0
内容・質	内容・見やすさに充分工夫	10
(減点方式)	アイデアもう工夫ほしい	-3
	文のまとめ方もう工夫ほしい	-1
	写真なし	-2
1人あたりの作業内容(9/11)		
①	入力・構成	0.3
②	思考・アイデア	0.3
③	検索・調査	0.2
④	同意・修正	0.1
⑤	同席	0.1
	合計	1 (加点方式)

$$\text{【制作物点(100点満点)】} \times \text{【作業内容評価(自己評価含む) \times 10】} = \text{本人得点(100満点)}$$

グループごとの分量内容質の評価を個人に還元するにあたっては、制作物の評価と作業内容やグループ内での貢献度を掛け算した。

#### 学習ソフトを利用することについて

プログラミング学習が容易に進めることができる一方で、それが目的となってしまうと、教員が不要になってしまうように思う。また、作成のために、ネット上に公開されているテンプレートや画像を活用することもできるが、教科独自の視点や著作権やメディアリテラシーについて考えたときに、教員の専門性が求められる。

### 3. 講演

講師 佐藤 隆さん (都留文科大学)  
— G I G Aスクール構想と主体的・対話的で学びのゆくえ—

#### 「主体的・対話的な学び」が新学習指導要領で提起された背景

2003年のPISAの読解力の問題で無回答の割合が多かった。2007年に全国学力学習状況調査ではこれまでの単に知識を得るというだけでなく、それを使って活用する、思考力を見る、ということが強調された。これは世界的な動きでもある。(コンピテンシー型、

21世紀スキル) 学校教育法でも2007年にもすべての教科等の目標及び内容を三つの柱に整理された。そこで主体的・対話的で深い学びがキャッチフレーズになった。単なる方法ではなく、教育実践の原理・思想として必要だと考えてきたが、授業改善の一つの方法のためだけに使われてしまった。また、知識基盤社会・Society5.0などの未来社会論からの脅しによる、経済的観点からの国家戦略の一部として教育を位置づけていこうという問題もある。



#### 2020年7月の「GIGAスクール構想」

「主体的・対話的で深い学び」とは全く異なる「個別最適化」という言葉をキーワードでGIGAスクール構想が出てきた。GIGAスクール構想自体の本当の推進者は文科省ではなく、経産省の「未来の教室」構想である。学校はEd Tech企業の市場開拓の場に、という流れが生まれている。

#### 「個別最適な学び」は誰のためのものなのか、

教育とは、肌と肌のふれあい、そこでの感情の交流を通して、教師たちは専門科の知恵を蓄積されてきた。それが数値化され単純化された時に教師の専門科の知恵はやせ細っていくのではないか。子どもの興味関心、学習の到達度はデジタルポートフォリオなどで履歴が作成され、AIが解析し学習履歴によって生徒児童は振り分けられ、「身の丈に合った」学習課題に取り組ませる。子どもの個人情報蓄積・管理し、それらをマイナンバーと紐づけ、国家が一元的に管理監視し、経済界が活用する。生徒にとっては学習履歴と評価はデジタル・タトゥーのように一生涯付きまとう「全ての子どもが値踏み・格付けされ、それを押し付けられる入口(Grade Imposed Gateway for ALL)」としてのGIGAスクールなのではないか。

#### GIGAスクール構想は学校「解体」論？

目指すべき「未来の教室」の実現に向けた柱として、「学びの自立化・個別最適化」のほかに、「学びのSTEAM化」という言葉が打ち出されている。

(S(Science:科学)、(Technology:技術)、E(Engineering:工学)、M(Mathematics:数学)そこにリベラルアーツ(Arts)の要素を編み込ん

## 本当の意味での「主体的・対話的で深い学び」の探究へ



ブラジルの教育学者パウロ・フレイレ：「解放の行為としての教育」を創り出す手掛かりとして対話を重視。

「発見される問題」は、自分たちを取り巻く世界について語り合うことを通じて、自分たちの問題として意識化する実践のなかでしか立ち上がってはこない。

「発見される問題」は、個人の問題であると同時にすべての自分たちの問題でもあるという性質を持たざるをえない。


だ学び) これまでの一律・一斉・一方向型の授業や、同じ学年の子ども達が同じ教室に同時に集まり、標準的な授業時数を一律に履修している現在の学校制度は時代遅れでありSTEAM 学習の障害になっている。教師や民間教育サービス、企業のエンジニア、大学等の研究者等の協力を集め、STEAM 学習プログラムの開発とそのデジタルコンテンツをインターネット上に置くSTEAM ライブラリーを設置しておけば、自分の問題関心に従って同じ問題に関心を持っている子どもたち同士で協同した学習ができるというが、私たちの考える協同のベクトルはどのくらいあるのだろうか。これまで学校で蓄積してきた学びのあり方や内容を無視するような形で新しい提案が出てきていることに危機感をもって受け止めなければならない。

「主体的・対話的で深い学び」と、GIGA スクールの「個別最適な学び」とは、その本質において共存できない。ICT を闇雲に否定することはない。新しい情報にアクセスするためには必要な道具である。システムの中に絡み取られるのではなく、それらを使いこなすためのものとして考えていく必要がある。そのためにも本当の意味での「主体的・対話的で深い学び」を探究していかなければならない。

諸外国の教育学者、教育に関わる人たちが述べてきた言葉というのは私たちが考えてきたことと重なっている。

ジョン・デューイは「興味」を教育の原点にしようとした。これらの興味は「子どもに内在する自然の資源」であり、生活と結びついてこそ発動する。STEAM のように上から課題を提示するのとはかなり異なる。

地域の人、もの、事を基盤にしなが、大人にも簡単には解決できないような課題へ挑戦すること、高校生が動くことで人から信頼されるという経験、皆で取り組む充実感を持つ経験、自分の内面に向き合い問いを持つ経験を日本の教育実践は作り出



主体的・対話的な学びの蓄積 例えは国際  
新教育運動の一翼を担ったジョン・デューイ

「対話というコミュニケーションへの興味」  
「探求という何かを発見することへの興味」  
「何かをつくるという制作への興味」  
「物事を芸術的に表現することへの興味」

「子どもに内在する自然の資源」

してきた。「主体的・対話的で深い学び」を考えるときに、これらの蓄積をもう一度問いなおす、新たに作りだしていく教育が求められているのではないだろうか。

### 質疑応答

Q : GIGA スクール構想の行きつく先が「学習は自己責任論」になるように思う。

A : 個別最適化は自己責任論になりうる。学習履歴の蓄積⇒それを評価する⇒学校の存在意義、学校解体論につながる。

Q : 結局はこれまでの教育改革と同じになってしまうのではないか。

A : 教師の働き方改革とつながる、と謳われている。果たして一体そうだと言えるのか、子ども実態に即しているのかどうかと言われたら疑わしい。実態に即していないデータばかり集まると、実態から離れてしまい、逆に教師の仕事が増えるのではないか。

Q : EdTech 企業は日本に何社くらいあるのか？

A : 爆発的に増加している。学校が企業の市場になっていく可能性がある。

Q : 高校生の学びの指標や観点別評価など、教育の現場に政策が入り込んできているように思う。内面評価、内心評価など、生徒の価値観を数値化し、生徒の調査書などに用いることに抵抗がある。佐藤先生のお考えを聞かせていただきたい。

A : 子どもの内面を評価することはその原理を再考する必要がある。評価をせざるを得ないのであれば、その生徒にとって意味のある評価を行うべき。(言葉がけ、関わり方など) 評価が順位付けと結び付けられないような工夫が必要になってくる。生徒を成長させていくという思いを含めた評価を行っていくべき。

Q : 教育基本法の改正(改悪)が根本のように思う。そのときに指摘されてこなかった問題・課題が今になって現れてきているように思う。何を目指してやっていけばいいのか。

A : 現代からの視点で分析をし直す、見えてきた課題を分析しなおす、教師が集団としての専門性を発揮していく必要がある。挑んで行く必要がある。

## 4. 松筑支部教研報告

### 松筑教文事務局長 奥原圭永（松本筑摩高校） 2021 年度松筑支部教研集会（オンライン講演会）報告

今年度松本筑摩高校が教文事務局の当番校ということで、議長、事務局、会計をやらせていただきました。特に私は事務局長でありながら教文について不慣れな上に分掌上 3 月の引継ぎもできず、何から始めたらよいのかも分からない状態でした。4 月になってからも久しぶりの担任業務に追い回され、教文の仕事に手を付けられたのは 4 月末でした。それも副議長の石川先生からアドバイスを受けながらやっとの状態でしたので全てが遅れ、皆様大変なご迷惑をおかけしてしまいました。今更ですがこの場をお借りしてお詫びいたします。

コロナ禍の中で密を避けるという観点から定期総会は教文委員のみ集まっての開催とし、秋の教研集会も講演会のみオンラインにて実施、研究会はそれぞれの計画によって別日程にて行うことで進めています。講演会講師は松本工業高校の青柳先生のご推薦により日本テレビの報道記者、「清水潔氏」にお願いしました。



本部より ZOOM を拝借し、内堀先生からご指導も受けました。教文委員の先生方とはリハーサルを実施したものの、かなりの部分はぶっつけ本番的な感じでした。初めてのホスト役であったため戸惑うことが多く、今までの参加する立場とは全く違うことを実感しました。



講演は「教育と報道の責任」のタイトルの通り深い内容で「報道」とは何かということをご自分の経験からパワーポイントで動画も交えながらのお話でした。

「桶川事件」「足利事件」「南京事件」等、自らの足で正確な事実を突き止めるまでまで一瞬の妥協もなく追及する姿勢がありました。

なぜそこまでできるのか。

報道記者としての責任を果たす。

教育は「民主主義」を伝え、報道は「知る権利」に奉仕する。

先生方から教職員としての見方考え方に大きな示唆をいただいたと感想をいただきました。



運営そのものはぎこちなく危なっかしいものでしたが本校の先生方や各学校の教文委員の先生方に支えていただきながら、内容のある講演会を開催することができたと思っています。また講演も含めてですが、協力して行うことの尊さを改めて実感することができました。先生方のご協力に改めて感謝いたします。本当にありがとうございました。

今年度は各研究会を全体で一斉に開催することはできませんでしたので、それぞれの計画によって進めていただけますようお願いしているところです。

「上小支部教研について」続きます。下のページを  
引き続きご覧下さい。



## 5. 上小支部教研

### 上小支部教文事務局長 甲田泰広（上田高校） 2021年度上小支部教研集会（オンライン講演会）

上小支部はレポートをネットにアップして研修を行いました。2020年度も同様の方式を取りましたが、本年は昨年を上回る数のレポートがアップされたそうです。

# 2021年度上小地区 教育研 究集会

教文会議上小支部

## 日時・場所

9月11日（土）

午前 各分科会

午後 13:30～開会式

14:00～講演会

講師 鈴木大裕 氏

教育研究者 高知県土佐町議会議員

講演会はオンラインです。

Zoom開催ですので、9月10日（金）18:00までに  
下記のURLにアクセスして登録してください。

（分科会・研究会のURLとは異なります）

URL:[https://zoom.us/webinar/register/WN\\_ghhum6E9QP66iFn\\_tN517Q](https://zoom.us/webinar/register/WN_ghhum6E9QP66iFn_tN517Q)

※迷惑メール設定をしているメールアドレスを登録する場合は、  
[no-reply@zoom.us](mailto:no-reply@zoom.us) の受信を「許可」にしておいてください。

【登録ができない場合・不明な点は下記まで】

上小地区教育研究集会事務局（高教組ではありません）

TEL 0268-22-1037

Mail [ntu-jousho@aj.wakwak.com](mailto:ntu-jousho@aj.wakwak.com)

## 高校の先生のレポート

### 【ZOOMでの開催】

外国語教育 9:00～10:15（予定）

「スピーキングを高めるトライアングルディベート」  
村山美耶子先生（上田染谷丘）

### 【Webでのレポート公開】

期間 9月6日（月）～10月5日（火）

URL <https://sites.google.com/view/josho-kk-web2021>

パスワード jokyo21

国語教育 書写・書道教育 図書館教育

「よりわかりやすい授業動画配信にむけた機材の  
検討」阿部佳南子先生（上田東）

算数・数学教育

「生徒の主体性を育む取り組みに関する実践例」  
須澤崇史先生（上田染谷丘）

理科教育

「メロディパイプを用いた音の共鳴実験」

松井聡先生（上田染谷丘）

「ペットボトルのキャップ惑星の自転周期と1日の  
長さ」森嶋光先生（上田千曲）

「BB弾で結んだ”質量数と化学反応の量関係”」

小田切亨先生（上田）

音楽教育

「コロナ禍における合唱活動の事例」

宮下靖弘先生（上田）

学校保健教育

「学校におけるコロナ対応」

清水けさ枝先生（上田千曲）

総合的な学習・環境教育

「バイオマス発電について」

森嶋光先生（上田千曲）

※上記以外の分科会・研究会は小・中・養護学校  
からのレポートが公開されますので、ご覧ください。

高教組教文会議上小支部 事務局

上田高校 甲田泰広

TEL 0268-22-0002

## 6. 下伊那支部教研報告

下伊那支部教文事務局長 小松久志（飯田風越高校）  
「活発に討論～授業実践、オンライン授業など～」

9月25日（土）に飯田風越高校を会場に支部教研を開催しました。新型コロナウイルス感染が心配される中で規模を縮小して午前中の開催でしたが、支部の皆さんにご協力いただき無事に開催することができました。教科別が5分科会、課題別が2分科会の開催となりました。参加者の感想の一部を紹介します。



「継続していくこと、なかなか大変ですが、参加すると必ず得るものがあります。大切にしたい研究会です。（国語）」「有意義な意見交換、情報交換ができました。（数学）」「ベテランから若者まで素晴らしい発表をしていただきました（理科）」「参加人数が以前に比べると少ないですが、その分、ざっくばらんに話をしてきて有意義でした。（外国語）」「コロナ禍でも集まって話を出来たことが大変よかったですと思います。（家庭科）」「初めて出ましたが、下伊那地区で先生方と教科のことなど共通で話ができる機会であり、ありがたかったです。（芸術）」

参加人数は例年に比べて少なかったですが、問題、授業実践を共有し、交流することは大切だと意見が多数ありました。各分科会ごと、授業実践を発表したり、学問的な研究をしたりと分科会ごと様々な角度から研修を企画、運営していただきました。これも、日々の学校業務の傍ら、運営やレポート発表・準備をしていただいた各校の代表の先生方、レポーターの先生方の多大な尽力があったからこそと深く感謝申し上げます。



コロナ対応、ICT対応など日常業務が多忙で気ぜわしく、余裕を失いつつ学校現場ですが、支部教研の日くらい、ふと立ち止まって少しゆっくりと他校の先生方と交流する日であればと思います。